



「やまだ暮らし」

スタートアップガイド



岩手県山田町

これさえ分かれば

ヤマダ 山田通



1 やまだまち

読み方は「やまだちょう」ではなく「やまだまち」である。

2 三陸のど真ん中

三陸復興国立公園のほぼ中央に位置している。

3 岩手なのに意外と温暖

冬の平均気温が県内で最も高いといわれ、積雪はほとんどなく、夏は涼しく過ごしやすい。

4 町のシンボルオランダ島

美しく丸い鏡のような山田湾と、そこに浮かぶ東北唯一の無人島海水浴場オランダ島が町のシンボル。

5 映えスポット「荒神海水浴場」

エメラルドグリーンのと海と白い砂浜の対比が、映えスポットとして人気の荒神海水浴場。

6 一度は行きたい 蒸しカキ食べ放題

カキとホタテの養殖が盛んで、シーズンには蒸しカキの食べ放題を目標に、かき小屋に多くの観光客が訪れる。

かき、くうけえーこー
(かき食べるからおいで)

7 高級特産品の隠れた名産地

特産品は、ウニ、アワビ、イクラ、マツタケなど、高級品が並ぶ。

8 原木シイタケの名産地

原木シイタケの栽培が盛んで、日本に3人しかいない「名人位」のうち、2人が山田町にいる。

あなたの次の舞台は
山田 かもしれません

宮古市

こんな形なんだね!

岩手県

大槌町

かき小屋 商売繁盛

9 農業体験も魅力!

里山地域の高齢者がクラウドファンディングで資金を調達し建設した水車小屋を拠点に、そばを一からつくる農業体験を行っている。

10 マリンスポーツを満喫

波の静かな山田湾内ではシーカヤックやサップなどマリンスポーツを楽しめる。

町の面積: 262.81km²
町の人口: 約1.5万人
世帯数: 約6500世帯

2022年3月現在

山田町には、地域おこし協力隊、IターンやUターンで頑張っている方がいらっしやいます。

このパンフレットをきっかけに山田町での生活、子育て、仕事、住まいのイメージを膨らませていただき、ぜひ、豊かな自然や温かい人々に囲まれた山田での暮らしに向けて第一歩を踏み出しましょう。

山田町でお待ちしております。

山田町長 佐藤 信彦



NEXT PAGE 実際に山田に移住した先輩の話聞いてみましょう!



たざわ みゆき
田澤美幸さん
(2021年Uターン)

リモートワークを実践 鳥のさえずりで目覚める毎日に喜び

新型コロナウイルス感染症の拡大を機に、新しい働き方として注目される機会の増えた“リモートワーク”。パソコンで設計図面を製作するCAD技術者の田澤美幸さんは2021年に山田町にUターン、受注した仕事をリモートでこなす働き方を実践しています。

設計会社などの社員としてCADのスキルを磨き、感染拡大前の2018年に個人事業主として独立。都内の自宅で仕事をするうちに「この仕事はネット環境さえあればどこでもできるのでは？」と考えるようになったと言います。

Uターンを後押ししたのはやはりコロナ禍。生活に適度な緊張感をもたらしてくれる大切な趣味だった海外旅行に行けなくなり、自宅にこもりがちな生活。「1人で生活して1人で仕事をするのが自由すぎて……。環境を変えて気を引き締めたいと思うようになったんです」。

自由で便利な生活から離れるために選択したのが実家暮らし。両親の生活スタイルに合わせて起床し、食事を取り、片付ける、そんな山田での日常が始まりました。「両親のリズムに合わせることで、生活にメリハリがつかえました。鳥のさえずりで目が覚めるのも新鮮で、1日の良いスタートが切れます」とほがらかに笑います。

「常に成長を続けたい」がモットーの田澤さん。「今後は何か地元の役に立てる活動もできれば良いなと思っています」。新しい日常の中でもその向上心は変わりません。



(撮影協力：CafeBistro BAY HOMES)

▶▶▶ 山田町移住支援金

東京圏から山田町へ移住した方のうち一定の要件を満たした方に支援金を交付します。過去10年のうち通算5年以上東京23区に在住、または通算5年以上東京圏（条件不利地以外）に在住し23区に通勤していた方が対象で、申請後5年以上山田町に住む意思があることなどが条件です。



たかはし とも のり
高橋知義さん
(2019年Uターン)

山田は人が良いまち 変わらない明るさとパワー

いずれは地元の山田町に戻ろうと考えていた高橋知義さんが具体的にUターンを考え始めたのは30歳を過ぎたころ。私用のメールアドレスに“yamadajin（山田人）”と入れるほど、「もともと山田のことが好きで、子どものころから良いところだと思っていました」。

20歳の時、東京に住んでいた姉を頼って上京。営業職などとして働いてきましたが、時の流れとともに「なんとなく戻りたいな……」という思いが少しずつ募ったと言います。仕事について地元の友人や知り合いなどに相談し、ハローワークで見つけた移住支援金支給対象の企業に就職が決まりました。「地元で知り合いがいるから仕事がスムーズに進むこともあります。10年以上離れていたのに覚えていてくれたんだと思うとうれしいですね」。

週末の楽しみは、移住支援金を活用して購入した愛車でのドライブや釣り。「釣りは子どものころからやっていましたが、最近は海釣りだけでなく溪流釣りに挑戦したり、山に登ったり。近くにあるものを何でも楽しみたいと思っています」。

山田を離れていた10年余の間に東日本大震災や大きな台風被害などがありましたが、Uターンして感じることは「町の景色は変わっても、山田の人たちは意外に変わっていない」ということ。「今も昔も山田は元気で明るく、良い人が多いですね」。穏やかな口調の中に山田愛がにじみます。



▶県のマッチングサイト「シゴトバクラシバ IWATE」に掲載された対象法人への就職 ▶岩手県の起業支援金の交付決定を受けていること—のほか、令和3年度から対象が拡充され ▶テレワークで業務を継続すること ▶内閣府地方創生推進室のプロフェッショナル人材事業、先導的人材マッチング事業を利用した新規就業—等に該当する方なども対象になります。



おおつまさとし
大津 政俊さん
(2019年Iターン)

尊敬する船頭夫婦との出会いに感謝し修行の毎日

17歳にして地元の静岡県を離れ、単身、山田町へ。大津政俊さんは、大目流し網漁船「第十五菊丸」の乗組員として、船頭の昆一彦さんのもとで修業を積んでいます。

刺し網漁の一種である大目流し網漁業は、メカジキやサメといった大型の魚を狙う漁法。第十五菊丸は三陸沖から北海道沖のあたりで操業し、天候や漁獲量によっては1週間ほど陸に上がらないこともあります。

漁業とは無縁だった大津さんが船乗りの道を選んだのは「地元を離れて、厳しい環境に身を置いて自分自身を見つめ直さなかったから」。静岡県以外を対象に求人を探し、「キツイ仕事」のイメージにぴったり、と応募したのが昆さんの求人でした。

採用が決まり、初めて町を訪れたのは2019年1月のこと。東日本大震災から8年近い月日が経過していましたが、「思ったより復興は進んでいないんだなと感じました。あの頃と比べると飲食店なども増えましたね」。

「実際に船に乗ってみたら、思っていたよりはるかにキツかったです」と振り返る大津さんを「最初のころは毎回船酔いばかりしてましたけれど、今じゃ、よくがんばってるなって思います」と温かく見守るのは船頭の妻の裕子さん。

「山田町に来て本当の親のように育ててくれる船頭夫婦に出会えて感謝しています。いつか昆さんみたいにかっこいい船頭になるのが自分の目標です」。



▶▶▶ 新規漁業就業者支援制度

漁業就業を検討する方が養殖漁師や定置網漁業乗組員のもとで無料で漁業を体験できるほか、漁業就業を目指して漁業者から研修を受ける際には、受け入れ漁師に補助金が交付されます。また、賃貸住宅に入居する場合は一定期間の家賃、敷金・礼金の一部の補助を受けられます。



はがのりこ
芳賀 典子さん
(2019年Uターン)

新しい発見や出会いにあふれたUターン就農

石垣島や大阪で農業に携わり、2019年に山田町にUターンした芳賀典子さん。現在は荒川地区の実家で両親や祖母と暮らし、車で2分の「いわき農園」で有機農業の技術を学びながら、実家の農地での野菜作りにも取り組んでいます。

「15年ぶりに戻って来て、地元なのに発見や出会いがたくさんあって新鮮です」と話す芳賀さんですが、元はUターンしようという気持ちはなかったと言います。

「静かな環境で働きたい」との思いから石垣島の農業法人に就職し土に触れるうち、実家の父親が管理する田んぼや畑が気になるように。将来、誰も手入れをしなくなるのは忍びない、と大阪の農園での勤務を経て、山田町に戻ってきました。

当初は、経験をもとに独学で有機栽培に取り組んでいましたが、町の農政担当者の紹介で「いわき農園」の岩城創さんのもとで2年間の研修を受けることになりました。「農業をやるからには自分が食べたいと思える安心なものを作りたい」。技術や知識を学ぶ毎日です。

久しぶりの山田では10代のころには気付かなかった地域の暮らしの魅力に気付くことも。「山菜採りやキノコ採りのように祖父や父が暮らしの中で当たり前に行っていたことを自分もちゃんと知っておきたいと思うようになりました。まだまだ知らない地域の魅力を見つけながら暮らしていきたいです」。



▶▶▶ 新規就農者研修受入支援事業

3時間/日の研修を最長2年間農業者のもとで受けられます。また、研修時間外に農業に従事し、収入を得ることも可能です。



さいとう てつや しずか
齋藤 哲也さん・静さん
(2016年Uターン・Iターン)

学校や地域に恵まれ、子どもたちは自由に成長

「山田町は子どもたちの人間性を育ててくれる地域」。そう語るのは、2016年に町にUターンした齋藤哲也さん。山形県出身の妻・静さんも「恵まれた自然環境と子どもたち同士で自由に遊びに行ける環境の中で、成長の機会がたくさんあります」とほほ笑みます。

いずれは家業の設備会社を継ごうと考えていた哲也さんは、高校卒業後、仙台市と東京・八王子市での生活を経て、2016年に家族とともに帰郷し新居を構えました。東日本大震災直後にもUターンを考えましたが、復興需要が落ち着いた後の地域を支えていく力をつけるためには「東京で実績を積んでから」と施工管理の経験を重ねてきました。

長女・榮さん、長男・魁さん、次女・萌さんの3人の子どもたちとの団らんがかけがえのない時間。静さんは「引っ越してきた当時は初めての土地になじめるか不安はありましたが、近くのプロ御さんたちが声を掛けてくれてあっという間に家族みんな打ち解けました」と振り返ります。また各家庭と学校の心理的な距離が近く、食物アレルギーへのきめ細かな対応は驚くほどだったそう。

育ち盛りの子どもたちがいる齋藤さん一家にとって、食が豊かなのも魅力。「カキやホタテはもちろん、近くの農家さんの有機野菜が手ごろな値段で手に入るのもうれしい」という静さんは、山田で暮らし始めて魚をさばく腕前も上達。料理が楽しみになりました。



▶▶▶ 子育て支援制度

「子育てにやさしい山田町」を合言葉に、町独自に幼児教育・保育の無償化を拡充し0～5歳児まで対象としているほか、定期予防接種は全額助成、任意予防接種も一部助成しています。また産前産後ケアにも力を入れており、妊娠各期に応じて必要な支援や出産、育児までを一貫して助産師や保健師がサポートします。



ふくし てつや
福士 哲也さん
(2017年Iターン)

若者が地域を自慢できる、それが山田の魅力

山田町の中心部に2017年オープンした美容室「Riz hair」は岩手県内各地から若い女性客が理想のカラーリングを求めて通う人気店。そのオーナー福士哲也さんは千葉県出身で東京・表参道のサロンで経験を積み、妻の地元である山田町にIターンしました。

結婚後、毎年2回は町を訪れていたことや、もともと場所にこだわらず「美容師は腕次第」という信念があったため、Iターンに不安はなかったと言います。そんな福士さんにとって、理想とするサロンを実現するために起業するのは自然な流れでした。

接客をする中で気付いたことがあるという福士さん。高校生や20代の若者が山田の祭りの盛り上がりや美しい海、地域で評判の店のことなどを話してくれることも多く、「若者が自分のまちの自慢をできるのはすごいことだと思います」。

3人の子どもたちもすっかり山田っ子になりました。「長女は地域の歴史をテーマにした劇に出たことを誇らしげに話してくれて、4年間暮らしただけでも地域に愛着を感じていることに驚かされました」。そんな子どもたちの成長に「小さい時から劇や祭りを通じて達成感を味わえるのは貴重な体験」と目を細めます。

福士さんにはこれからチャレンジしたいことも。「子どもたちをモデルにしたヘアショーや、子どもたちが地域の仕事を体験できるような機会をつくりたい。そのために地域の事業者とのつながりも深めたいと思っています」。



▶▶▶ 起業支援制度

起業または新事業に取り組もうとする方を対象としたやまだ創業サポート事業は、備品購入費や広告宣伝費など初期費用の一部を補助する制度で、補助率は3分の2（39歳以下または女性の場合は6分の5）以内で、上限は50万円。ほかに中小商工業者利子等補給事業による支援もあります。

※この制度は福士さんが利用したものではありません



かみ こ よし ひろ
神子 芳弘さん
 た み え
多美枝さん
 (2021年1ターン)

気取らない近所付き合いと美しい海に感激

「山田町に来て本当に良かったと思っています」と口をそろえるのは神奈川県から移住した神子芳弘さん・多美枝さん夫婦。2人が移住したきっかけは一人娘の結婚と出産でした。夫の地元である宮古市に住み始めた娘夫婦や夫の両親から、孫の顔を見に来やすい近隣への移住を勧められ、最初は「70歳近くになって新しい土地になじめるのか心配でした」。

ところが、宮古市の南隣の山田町の高台にある戸建て住宅に暮らし始めて半年たたないうちに不安は解消。「いいところに来たよなあ」と言う芳弘さんに、多美枝さんも「近所の方が取れたての魚介類や新鮮な野菜を持って訪ねてきてくれたり、何かと気に掛けてくれたりして。気取らない人とのつながりにほっとするんです」と笑みを浮かべます。

本格的に移住を検討するにあたっては町移住コーディネーターに相談し、移住お試し住宅に2週間滞在して、気候や買い物の利便性などを確認。住まいは補助金を活用しキッチンなど水回りをリフォームしたことでさらに快適になりました。

天気の良い日には車にアウトドアチェアを積み込んで、近くの荒神海水浴場に赴き、ランチや読書を楽しむことも。「こんなエメラルドグリーンの海が家から10分で見られるなんて関東では考えられませんでした」と多美枝さん。海のレジャーや畑づくりにも挑戦したい、と山田暮らしの夢は広がります。



▶▶▶ 移住定住促進 リフォーム補助

山田町に移住し、5年以上暮らす意志のある方などを対象に、上限100万円（補助率50%）でリフォームに掛かった経費を補助します。工事の着工前と完了後、それぞれ町政策企画課への申請書類の提出が必要です。



なか じま たかし
中島 崇さん
 (2019年1ターン)

無人島にワクワク 観光×漁業に挑戦

滋賀県出身の中島崇さんは、山田町に移住した地域おこし協力隊第1号。オランダ島を活用した観光プログラムの開発などに取り組みできました。

「東北は未知の世界だった」と言う中島さんは、岩手県沿岸部で活動するフォトジャーナリストの講演会をきっかけに三陸に可能性を感じ、情報収集を開始。山田町で無人島を活用した交流人口拡大に取り組み協力隊を募集していると知り、応募しました。「無人島という響きが自分に刺さって、ワクワクしたのを今も覚えています」。

採用面接のため初めて町を訪れ三陸沿岸道路を車で走ると、養殖いかだが並ぶ山田湾に緑色の島が浮かぶ光景が目飛び込んできました。「まるで映画のセットやないか!」。さらに興奮は高まりました。

着任してからは、アウトドアに関連する資格を取得したり、モニターを対象にオランダ島に1泊するテストキャンプを実施したりと、知識と経験を積んできました。「テストキャンプでオランダ島で朝を迎えた時、湾口から昇る太陽に心を打たれて、改めてこの景色をいろんな人に見てもらいたいという思いが込み上げてきました」。

以来、3年間の任期後も山田町で活動したいという思いが一層強くなったという中島さん。定住に向けて観光×漁業の新しい働き方を実現するため、地元の養殖漁師の元で修業を積みながら、観光客を呼び込むアイデアを練る毎日を送っています。



▶▶▶ 地域おこし協力隊

都市地域から山田町に住民票を異動し「地域活性化コーディネーター」として活動する地域おこし協力隊を随時募集しています。活動分野は▶山田町体験プログラムの推進▶海と無人島をテーマにした体験型観光の推進▶里山地域の活性化▶地域の魅力を発信——の4つから選択できます。

働く 支援



山田町移住支援金

東京圏から町内に移住し、対象法人に就業又はテレワークで引き続き業務を実施する方などに移住支援金を支給します。

【県が窓口】いわて若者移住支援金

東京圏から移住する若者（39歳以下）への支援金を支給します。

地域おこし協力隊

都市圏などの方を隊員として採用し、地域の活性化を図りながら、隊員の移住定住を支援します。

起業

【岩手県中小企業団体中央会】 岩手県地域課題解決型起業支援金

岩手県内で、地域の課題解決を目的とした社会的事業を新たに起業する方などを対象に補助します。

やまだ創業サポート事業

町内での起業や新事業活動など、新たなビジネス立ち上げに係る初期費用の一部を補助します。

中小商工業者利子等補給事業

中小商工業者へ融資制度により資金を融資し、その融資に係る利子補給及び保証料補給を行います。

山田町未利用店舗等活用 支援事業

町内の空き店舗等を活用した新規出店者を対象に店舗の借り上げ費用の一部を補助します。

漁業

新規漁業就業研修受入支援

町内で新規漁業就業を希望する方を受け入れる経営体に対し、補助金を交付します。

新規漁業就業家賃補助

漁業に就業するために町内に移住し、賃貸住宅に居住する方に対し、補助します。

豊かな浜の担い手育成支援

新規に漁協の正組合員となり専業として漁業を営む方などに対し、補助します。



漁業体験できます！

養殖漁業や定置網漁業の仕事を無料で体験できます。滞在期間中、町営の宿泊施設が割安で利用可能です。

農業

新規就農者研修受入支援

町内で新規就農を希望する方は、3時間/日の研修を最長2年間受けられます。

農作物被害防止対策支援

有害鳥獣による農作物被害を防止するために設置する電気柵などの購入費の一部を補助します。

豊かな土づくり支援

土壌診断費用と、診断結果に基づいた肥料や土壌改良材の購入費などの一部を補助します。



住まい 支援



定住促進住宅取得費等補助

町外から山田町に移住し、住宅の新築または中古住宅を取得した費用や民間賃貸住宅の家賃の一部を補助します。

空き家バンク

未活用建物を売りたい・貸したい人と、買いたい・借りたい人をマッチングさせる仕組みです。

移住定住促進リフォーム補助

町外から山田町に移住し、町内の空き家等をリフォームする場合の費用に対する一部を補助します。

【県が窓口】いわて木づかい住宅 普及促進事業

県産木材を使用した住宅の新築やリフォームを支援します。

結婚新生活サポート事業

新婚世帯の住居費や引越費用の一部を補助します。※ 町内に住所のある方が対象です。

住宅用太陽光発電設備導入促進事業

住宅屋根に太陽光パネルを設置する費用の一部を補助します。※ 町内に住所のある方が対象です。

住宅建築促進事業

新築工事やリフォーム工事など住宅の建築工事に対する経費の一部を補助します。※ 町内に住所のある方が対象です。

浄化槽設置補助

下水道及び漁業集落排水処理区域外に浄化槽を設置する場合の設置費用の一部を補助します。※ 町内に住所のある方が対象です。

移住お試し住宅

移住検討中の方の現地視察など、やまだ暮らしを体験できるよう最長1か月利用できます。※ 町内に住所のある方が対象です。



出産 子育て 教育 支援



幼児教育・保育の無償化

国が無償化の対象としている3～5歳児に加えて、町独自に0～2歳児に対象を拡大しました。実費負担とされているおかずやおやつなどの副食費も助成します。

各種予防接種費助成

定期予防接種は全額助成し、インフルエンザ及びおたふくかぜの任意予防接種についても、一部助成しています。

ハロー赤ちゃん教室・ハローお孫ちゃん教室

妊婦やその家族、祖父母に対して、安心して赤ちゃんを迎えるために教室を行っています。



産前産後ケア

妊娠前から助産師や保健師による個別支援を実施しています。会場の保健センターにはフットマッサージ機やアロマを用意。来所が難しい方には個別訪問も。もちろん利用は無料で、利用回数の制限はありません。ママパパに大好評で、のべ利用者数は岩手県内 No.1 です。

ブックスタート

3か月児健診の際に、読み聞かせボランティアによる絵本の読み聞かせを行うとともに、絵本を贈呈しています。

放課後児童クラブ

放課後留守家庭の小学校児童を対象に、放課後児童クラブを開設しています。

山田町奨学金制度

経済的な理由により、高等学校以上の就学が困難な方に、無利子で貸与します。

奨学金返還支援事業

若い世代が、町内に就職した場合、奨学金の返還額の一部を補助します。

子育てサロン @オランダ島ハウス

保護者同士の交流と子どもの遊び場を提供しています。

- 美術館のような外観・内装
- 子どもの好奇心をくすぐるグレーの芝生



移住パパ、
移住ママを
一人にさせません!

助産師 なんでも相談

助産師2名が在籍しており、無料で相談ができます(要予約)。



～医師の皆さまへ～

- 開業時に係る費用を一部補助します。
- 視察時の旅費を負担します。
- 県立山田病院では医師を募集しています。
- 希望される場合、自然アクティビティを体験できます。

町内学校情報

| | | |
|----------|---------------|-------------------|
| 町立豊間根小学校 | 山田町豊間根 7-58-1 | (電話 0193-86-2412) |
| 町立山田小学校 | 山田町飯岡 7-28-2 | (電話 0193-82-9581) |
| 町立船越小学校 | 山田町船越 10-45 | (電話 0193-84-2351) |
| 町立山田中学校 | 山田町織笠 14-32-1 | (電話 0193-82-2611) |
| 県立山田高校 | 山田町織笠 8-6-2 | (電話 0193-82-2637) |

各種支援制度を活用して山田町に移住した場合のモデルケース

Case 1



東京23区に通勤していたAさん・Bさん夫妻が、山田町に移住した。住居は賃貸アパート。Aさんは、漁師を目指すため研修制度を利用。Bさんは、隣町の移住支援金対象法人に就職した。

※アパートの初期費用として、敷金1か月分と礼金1か月分が掛かった。
※Bさんは、対象法人に3か月以上勤務している。

活用事業

■新規漁業就業家賃補助

半年間で **40万円** を受給

■山田町移住支援金

100万円 を受給

Case 2



岩手県内在住のCさん・Dさん夫妻が、山田町の空き家を購入し、県産木材を活用したリフォームを行って住むことにした。

※CさんとDさんには、18歳未満の子どもEちゃんがいる。

※移住元は、大槌町、宮古市、釜石市以外の市町村。

※リフォーム費用は、およそ300万円が掛かる見込みだ。

活用事業

■移住定住促進リフォーム補助

100万円 を受給

■いわて木づかい住宅普及促進事業

購入した住宅のリフォーム費用として **25万円** を受給



山田町移住コーディネーター
森 宏子

2018年から、山田町の移住コーディネーターとして働いている森と申します。私が着任した当初は、移住関連の施策はほとんどありませんでした(唯一あったのは“移住コーディネーターの採用”くらいでしょうか)。ですが、現在は主要な移住支援制度が出そろい、受け入れの下地が整っています。制度ではくみ取れない移住希望者さん個々の課題を解決し、山田町への移住を実現できるようわたくしもお手伝いをさせていただきます。ぜひご活用ください。

山田町へのアクセス

自動車

盛岡南IC → 宮古盛岡横断道路 → 宮古中央JCT → 三陸沿岸道路 → 山田IC
約1時間40分

花巻JCT → 釜石自動車道 → 釜石JCT → 三陸沿岸道路 → 山田南IC
約1時間40分

鉄道・路線バス

盛岡駅 → JR山田線 → 宮古駅 → 三陸鉄道リアス線 → 陸中山田駅
約3時間

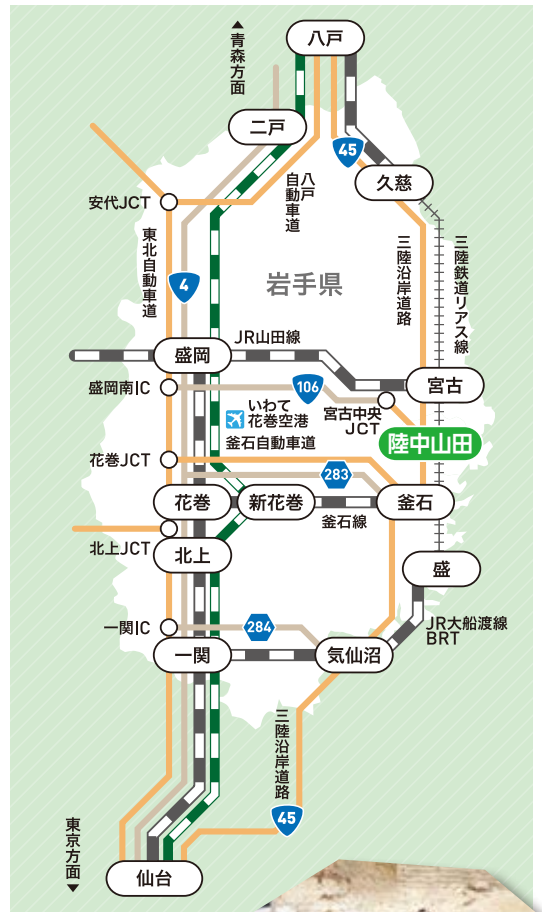
盛岡駅 → 岩手県北バス106急行 → 宮古駅 → 岩手県北バス → 山田駅前
約3時間

新花巻駅 → JR釜石線 → 釜石駅 → 三陸鉄道リアス線 → 陸中山田駅
約2時間30分

高速バス

さいたま・東京・横浜 → MEX宮古・盛岡[岩手県北バス] → 道の駅やまだ
横浜から約11時間

池袋・秋葉原・上野 → 遠野・釜石号[岩手県交通] → 道の駅やまだ
池袋から約10時間40分



やまだ暮らし

SNS あります!



【twitter】
https://twitter.com/yamada_ijuteiju



【instagram】
https://www.instagram.com/yamada_ijuteiju/



【facebook】
<https://m.facebook.com/yamada.ijusokushin>

ホームページはこちら



【移住特設ページ『やまだ暮らし』】
<https://www.town.yamada.iwate.jp/docs/ijuteiju.html>

〈発行〉

山田町政策企画課

〒028-1392

岩手県下閉伊郡山田町八幡町3番20号

TEL: 0193-82-3111 FAX: 0193-82-5611

E-mail: seisaku@town.yamada.iwate.jp